

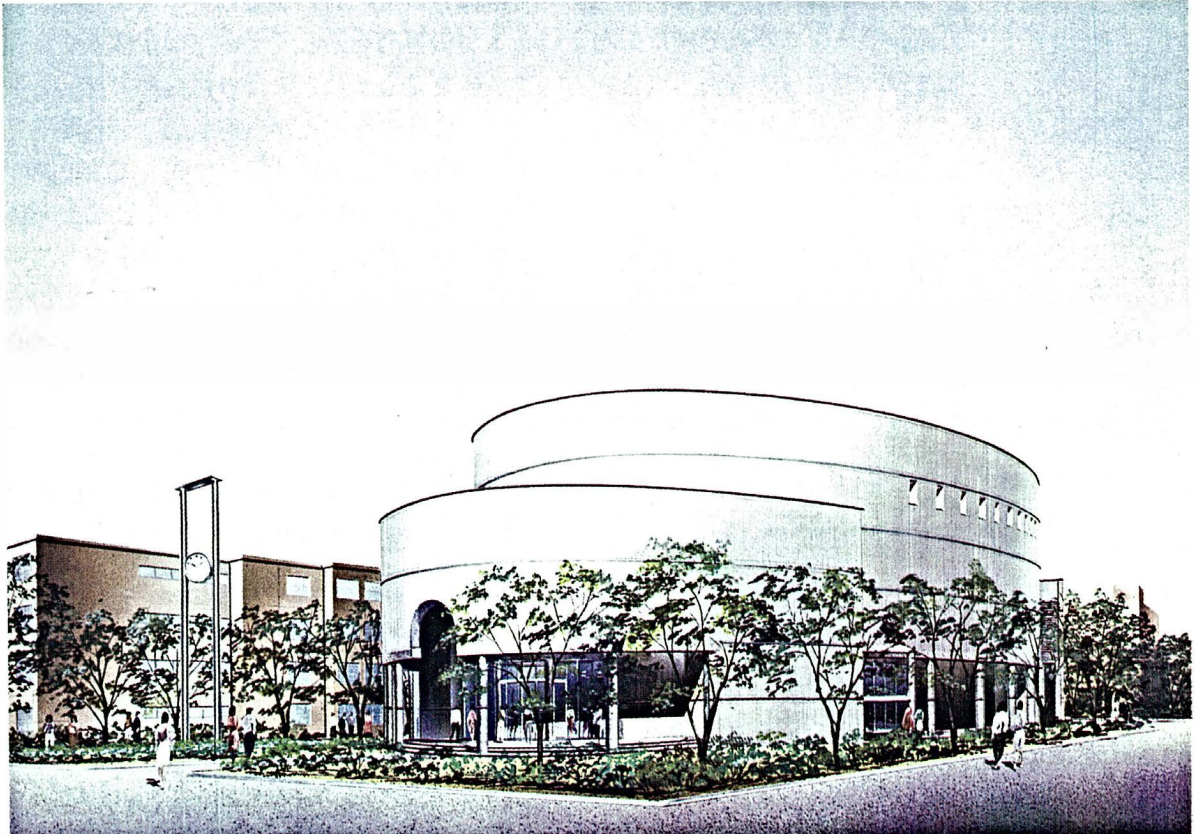
学園ニュース

富山大学

NO. 61

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 63 年 10 月 11 日



新黒田講堂完成予想図

◇◇◇◇ 目

次 ◇◇◇◇

理学部新移行生諸君に	理学部教務委員長 近堂 和郎.....	2
新任教官紹介及びあいさつ		2
ドイツ教授との出会い	工学部教授 島崎長一郎.....	5
留学点描	外国人留学生(人文学部) 任 建宏.....	6
ルードヴィヒスブルグ教育大学での留学を終えて	教育学部小学校教員養成課程4年次生 石原 法代.....	7
地域共同研究センターだより	地域共同研究センター助教授 池野 進.....	9
黒田講堂の改築について		10
学部だより(人文学部・理学部・工学部)		12
学生部・保健管理センターだより		17

理学部新移行生諸君に



教養課程を無事終えて、自分の選んだ専門の科目について、それぞれ学び始めた君達の、専門課程に対する期待感はいかばかりかと思う。専門課程の講義には、いままで学んで来たことの復習程度のものもあろうし、

あるいはいきなり高度な内容に立ち入るものもあろうが、捲むことなく、へこたれることなく、学習を進めて行って欲しいと思う。

君達がこれか学ぶのは、自然科学の中の、数学、物理学、化学、生物学、地球科学といった専門分野について、あるいは更にその中でいくつかに分れた分科の中の1つについて、専門的、個別的に学ぶわけだが、それらは自然の一側面についてのものに過ぎないのだ

理学部教務委員長 近 堂 和 郎

が、決して互い無関係なものではなく、密接に関連しているのである。それは、「自然」を理解する上で、対象の一般化、抽象化あるいは反対に、特殊化、具体化といった自然科学の手法によって、それぞれの分科に分れているに過ぎないのである。

1つの専門を通してその学問全体を、更には自然科学全体を見通すこと、それは極めて難しいことであろうが、自分の専門という窓を通して自然を正しく認識すること、あるいは、何事に対しても「科学的」に正しく理解を深めること、そういう姿勢を常に持って欲しいと思う。それは、大学に在学している間に限らず、君達の生涯を通して言えることであろうし、大学で自然科学を学ぶことを選んだ君達に課せられた使命でもあるのではなからうか。

~~~~~ 新 任 教 官 ~~~~~

部局名 人文学部

○エーバーソルト
・ライヒエル
昭4 6. 1 0

(外国人)
(教師) 63. 7. 1
テュービンゲン大学ディプローム
試験合格
担当：ドイツ語会話
ドイツ語作文

部局名 工学部

○砂田 聡
昭5 7. 3.

助手(工学部) 63. 7. 1
富山大学大学院工学研究科
修士課程修了
担当：非鉄冶金学

部局名 経済学部

○和久利 昌男
昭2 5. 3

教授(経済学部) 63. 4. 16
東京大学経済学部卒業
担当：応用経営(保険総論)



人文学部外国人教師

Eberhard Reichel

Eberhard Reichel

Im Monat Juli kam ich aus Deutschland nach Japan, um eine Tätigkeit als Lektor für Deutsch auszuüben. Da ein Ausländer in Japan erst einmal im wahrsten Sinne des Wortes sprachlos ist, bestand die Notwendigkeit, neben der Arbeit als Lektor auch Zeit für das Erlernen der japanischen Sprache aufzuwenden.

Das Studium der Philologie und Psychologie, Erfahrungen aus beruflicher Tätigkeit und Kenntnisse über Länder und Kulturen, die auch für Menschen in Japan „fern“ sind, könnten der Tätigkeit als Lektor dienlich sein. Zunächst gilt das Augenmerk jedoch dem Üben des Sprechens, das theoretische Kenntnisse ergänzen und dazu beitragen soll, daß die deutsche Sprache nicht „Fremdsprache“ bleibt.



新任のご挨拶

経済学部教授 和久利 昌 男



本年4月半ばに、経済学部経営学の保険論担当者として着任いたしました。それまでは、民間の損害保険会社に永らく勤務し、また最後の9年半は自動車保険料率算定会という特殊法人で調査・企画の仕事に従事していました。出身は西日本ですが、

学生時代以来東京で暮らし、北陸の地は始めてです。昨年暮に思いがけず富山大学への就職のお話があり、不思議な縁でこちらにご厄介になることとなりました。

保険会社にいた頃は、実務に忙しく、勉強や原稿執筆は主として夜や土曜・日曜の仕事でした。—もともと、後に勤めた自動車保険料率算定会では、調査・企画が主要な業務でしたので、勤務時間の相当部分を研究にあてることができましたが。—このたびやっとなんか本業になりましたので、残された年数の間、できるだけ精出したいと思っています。なお、教職ということについては、以前他の大学で非常勤講師をしていましたので全く未経験ではありませんが、講義やゼミナールには、ものを書くのとは別のむずかしさがあり、試行錯誤をしながらも何とかこなしてゆきたいと考えています。どうぞよろしく願います。

現在、保険の分野で最も大きい案件の一つは、高度

産業社会のつくり出す様々な危険による事故（交通事故、産業災害、偶発的な環境汚染、欠陥生産物による事故など）の被害者を救済するシステムを、どのように構築し運営するのが最適かという問題でしょう。これらのおびただしい被害者に対して、より公正に、より効果的に、かつより効率的に（すなわち、過大な手数・費用・時間をかけないで）救済を与えるにはどのような制度が望ましいかということが、多くの国で論議されていますが、わが国でもこの問題は真剣に検討されるべきであろうと考えます。

過去十数年間、私は欧米のアクチュアリー（保険数理専門家）の人々と交際する機会を得ましたが、そこで感銘を受けたことの一つは、彼等がフィロソフィーを重んじ、常に原理・原則に立ち帰ってものを考えることでした。これに対しわが国では、ともすれば、フィロソフィー抜きで、単にその場その場の状況への上手な対応を図ることが重要視されがちのように思われます。この傾向は、物事を正しい方向に発展させるうえで有利とはいえないでしょう。また、それでは、大学でのせっかくの勉強も十分に役立たないわけです。青春の頃に理念やフィロソフィーに対するみずみずしい感受性を培い、それを将来にわたって失うことなく、物事の本来のあり方を常に探究する姿勢を保ち続けることが大切ではなかろうかと考えている次第です。

新任のご挨拶

工学部助手 砂 田 聡



このたび7月1日付けで工学部金属工学科、非鉄冶金学講座に助手として着任いたしました。私は、富山市の出身であり、大学大学院と本学部、本講座で学びました。卒業後は、この6月末日まで約6年間、日産ディーゼル工業㈱（埼玉県上尾市）に

勤務し、ディーゼルエンジンの研究開発業務に従事いたしました。

本学を卒業後の6年間には、円高による輸出の落ち込み、次に内需拡大による景気の回復、これに伴う首都圏での地価高騰等、日本経済が大きく変化したと思

います。一方、富山では、皆様のご努力により、工学部が高岡から富山へ移転が完了し、前にも増してりっぱな工学部へ大きく変化発展していると思います。

このように発展する環境の中で、自分が富山大学のスタッフの一員に加えられて頂き、諸先生方、学生諸君とともに勉強、研究ができることを幸わeseに感じております。

着任後、早いもので2ヶ月余りたち、少しずつ研究を進めておりますが、折につけ学生時代の不勉強が今になってハネ返ってきており、後悔しているしだいです。

今後は、非鉄冶金学講座の皆様をはじめとし、富山大学の皆様のご指導を賜わりながら、自らの使命を全うするようがんばりたいと決意しておりますので、よろしく願ひ申し上げます。

一ドイツ教授との出会い（於マインツ大学）

工学部教授 島崎 長一郎



私の留学地マインツは、マイン河に注ぐ合流点のラインの左岸にある。マインツは歴史的に世界で最初の印刷術の発明者ヨハネス・グーテンベルグの生誕の地であると同時に、こゝは大司教の町として発展した地である。

私は昨年10月の初旬の快晴の日にルフト・ハンザ航空でフランクフルト空港に向かった。フランクフルトは銀行の都市といわれ、林立するノッポ・ビルとライン河が眼下にくっきりと現出した。空港で入国審査、荷物受け取り、税関を経由して入国した。空港内は広く、慎重に行動しないと迷う位である。案内所で連邦鉄道の乗り場を聞き、ヴィースバーデン行きの普通列車に乗り込む。土曜日のせいか列車は満員、周囲はドイツ人ばかり、ドイツ語のシャワーを浴びている感じ、一抹の不安を憶える。車窓はメルヘンの挿絵から抜け出たような緑したたる中央ドイツの田園光景があり眺めていても飽きがこない。1時間位でマインツ中央駅に到着した。ヨーロッパの鉄道は駅構内、車内放送もほとんどなし注意していないと乗り過ごすことになる。出、改札口もなし自由に入出が出来た。早速、駅構内より、留学先のProf.Schulzの家へ電話する。言葉が通じるかどうか不安だが如何ともし難い。奥さんが出られ、きれいな、ゆっくりしたドイツ語で「主人は駅まで貴方を迎えに行きました。多分左側にある中央郵便局の前で待っている筈である。」という返事であった。正直のところこれでホッとした。私はProf.Schulzとは写真以外で面識がなかった。駅前広場に出た途端、小柄で、気さくな普段着のまゝのドイツ人が「失礼だが、貴方が日本からきた島崎博士か？」と言い乍ら近づいてきた。最初戸惑ったが、良く観察するとProf.Schulzその人であることが判り、握手して初対面の挨拶をした。教授と出会ったのが午後1時半頃で、直ちに市内のレストラン（青空広場）へ行き、ビールと昼食をご馳走になった。その後マインツ市内（中世ドイツの建物）、ドーム（大聖堂）、劇場、世界に誇るグーテンベルグ博物館、ライン河畔の岸辺等を徒歩で案内して貰い種々と説明を受けた。その後、ライン河畔をBurg Rheinsteinまでドライブ

しようと誘われた。私はお互にビールを飲んでいたので、「ドイツでは飲酒運転は交通違反にならないのか？」と質問したのに対して、「運転手が運転可能と判断すれば良いのだ。」という事であった。国情の違いとはいえ、アウ

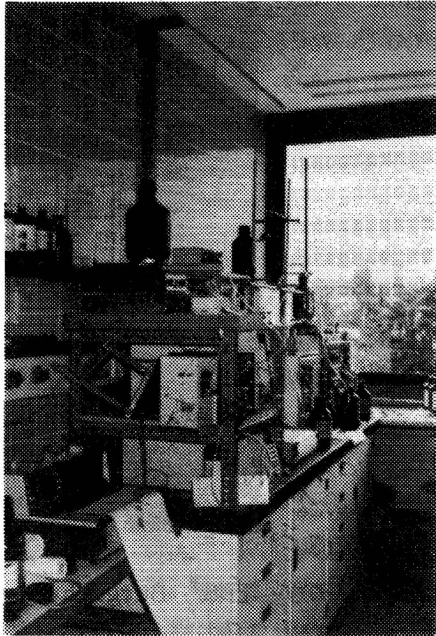


古城“Burg Rheinstein”の一部
トバーンに出（中庭を望む）

て時速100~120kmのスピードで悠々と運転しているのには恐れ入った。今迄、機内、空港、鉄道内ではきまりきった会話を喋っただけで、Prof.Schulzと2人だけの本格的な会話は、平生から無口な私にとってかなりの努力が必要だった。精一杯下手なドイツ語で身振り、手振りを混え、時には予め用意しておいたメモ用紙に単語や文章を書き乍らコミュニケーションにつとめた次第である。古城に到着した頃は閉館間際であったが、Prof.Schulzはドイツ人らしく案内状を片手に緻密に、見落しのないように全部を1時間位説明して廻った。会話は全てドイツ語で、興に乗ってくると速く話されるので、私は“Bitte, noch einmal, langsam!”と連発していたが、そのうち疲れてきたので、適当に聞いていると“Verstehen Sie?“, “Haben Sie Fragen?”と矢継ぎ早に質問してくる。何とか切り抜けた。その後、マインツに戻り大学構内を車で案内して貰った。キャンパスはかなり広く、キャンパス内に郵便局、銀行などもある。この2ヶ所は良く利用し、種々と小さなトラブルなどもおこした場所である。ついで教授室に行き、そこでコーヒーを飲み乍ら、研究打合わせ等を1時間ばかりやった。その後、大学構内にある客員教授宿舎（フォルクス・ワーゲン社寄贈）に案内して貰い、ドイツ滞在中宿泊す

る小生の部屋にいった。日本から送っておいた手荷物も教授が保管して下され、それらを一緒に部屋に運んだ。その後、教授は買物する場所を教えるということで、近くのスーパー等を案内して貰った。開店時間に

注意するよ
うにとの指示ま
で載いた。結
局、わかれた
のは午後9時
近くであり、
約7時間位、
2人で一緒に
いたことにな
るが、かなり
短く感じられ
た。異国(日
本はドイツか
らみると地球
の裏側)から
きた留学生に
、ドイツのみ
ならず、本人
自身の素顔を
見せて対等に扱



私のいた研究室の一部
(壁は全てタイル張りに
なっている装置はGPC)

~~~~~ 留 学



故郷を後にして、日本の国土に足を踏み込むのは三度目のことになるが、北陸の富山に来るのは初めてのことで、留学生生活を始めるのも私の人生においては新しいスタートなのだ。

富山——名前の通り、山に富むところである。北アルプスと

呼ばれる誇らかな立山をはじめ、その連峰の山々の雄姿、そして富山湾の風光、また神通川、庄川、小矢部川などの景観、一面の田圃の豊作光景……、富山！ほんとうにすばらしい。

その上、万葉の本場である越中の名勝古跡、親切な富山の人々……、いずれも私の心を引きつけ、風光明媚な極楽地に来たような気がする。

富山に落ちついてから、もうすでに半年が過ぎ去り、

うという態度は、今迄、私の体験した最高の接待ではないだろうかと思っている。会話は言葉だけでなし、お互の信頼感およびその背景にある文化や文明の理解も必要な気がする。

Prof. Schulzは研究所では65才という高令にも拘らず必ず実験白衣を着用され、私と会う度、例の人懐っこい笑顔で、“Herr Shimasaki, Guten Tag! Wie geht es Ihnen?”と握手をされた。朝も8時30分から夜は19時位まで研究室に在勤され、私が訪ねていくとどんなに多忙でも“Entschuldign Sie bitte, warten Sie bitte etwas!”といて時間をさいて載いた。異国の教授とこのように打解けて話が出来ことは私の短期間の在外研究にも拘らず、一生の思い出になると思う。今年の8月1日～5日の間、高分子化学国際会議が京都で開催され、Prof. Schulz夫妻も参加され、彼地で本学教育学部の竹内茂弥教授とご夫妻ならびに若干の研究者と一緒に会食して歓談したことを付記して置きます。

短期間の西ドイツ滞在で感じたのは、西ドイツは「完結した社会」だということである。百年はもちろんな清潔で頑丈きわまる住宅群、新・旧(徹底的な街並み保存)の調和、整備されつくした高速道路とその交通システム、広大な森林、緑なす田園、またその中での国民の生活様式、どれをみてもゲルマン人特有の牢固とした機能で動いている。

~~~~~ 点 描

外国人留学生(人文学部) 任 建 宏(中国)

富山での生活もすっかり慣れたというよりも初めから違和感がなかった。というのは、主食のお米は中国の江南米にかわって富山の水晶米、そして湖と川の魚にかわって海の幸になるだけなのだから。

中国江南地方無錫に生まれた私にとって、何よりもこちらの気候がよく変わることに驚く。また、雪景色は幼い時からの憧れだが、冬のその寒さをまだ知らず果して雪や寒さに対応できるかどうか、ちょっと不安を覚える。

こうした美しく、静かな環境の中で、半年ぐらい平安文学研究の大家である山口博先生の指導の下で、日本最古の歌集である『万葉集』を読み始めた。

私は宮廷詩人と呼ばれる柿本人麻呂の当時の大和朝廷や皇室貴族階級を讃える歌の構想の技巧的で、雄大さに感服するが、門地家柄のない山上憶良の子を思う歌や貧窮問答の歌の人間味の豊さに深く感じている。

このように作品の芸術性、思想性を読みとり、特に作品を通して日本古代の文化思想、社会風俗、人間関係、それに断片的ではあるが古代の農民生活、兵役関係などの面影を見ることができた。

それに、日本古典の最高峰ともいえるべき、世界文学史においても歴史の古い長篇小説『源氏物語』を日本語の原本で読みつけた。山口先生の解釈はとても精練で分かりやすくて、おもしろかった。これをたよりに私は『源氏物語』を詳しく読みとることができた。『源氏物語』は『万葉集』とちがって、もっぱら政治小説ともいえ、藤原貴族の独裁、いわゆる摂関政治の不合理と社会上の問題即ち男尊女卑、一夫多妻制から生まれてくる悲劇であると思う。そして平安時代の女流作家の感覚の鋭さに驚く。

特に山口博先生の中日比較文学の講義で話された中国の情歌と日本の恋愛、そして、その比較が一番おもしろくて、印象的だった。これはまた私の留学研究テーマの『中日比較文化』の研究にこの上ない助けになっている。

また、このような日本の古典文学だけでなく、山口幸祐先生の近現代文学史についての講義も私の日本文学に対する視野を大いに広めさせてくれた。そのおかげで、私は興味をもって多くの作品を読むことができた。そこで、作品を十分に理解するためには、もっと日本の社会に目を向け、自分の肌で体験し、より深く日本を知ることが必要だと思っている。というのは、これらの文学作品を裏づけているのは歴史、文化、と

くに日本の社会なのだ。

日本で半年ぐらいの留学生活を送ってきたおかげで、異文化を肌で感じ、日本人とのコミュニケーションができた。それで、日本の社会のしくみや風俗、習慣などは勿論のこと、とくに日本人の発想とものの考え方が中国人と大きく異なっていることをつくづく感じる。これは日本の国民本質、民族特徴と性格が中国のと違っているからだとは私は理解している。だから、日中友好関係を一層発展させるためには、それらなどをよく理解し、新しい友好の絆を結ぶことが大切であり、それから心と心のコミュニケーションで真の相互理解を促すべきであると思っている。

幸いなことに、富山国際センター、富山市日中友好協会、そして富山青年会議所国際交流委員会の方々のお陰で、日本人との交流の輪が益々広がり、友達もずいぶん増えてきた。でも富山大学にいなながらも、本校の大学生との交流がほとんどないことは残念に思っている。

ようするに“いきいき富山”このような充実した留学生活を送ることができるのは、山口博先生のご指導及び身元保証人の山崎勇作先生の至れり尽せりの思いやりと支援によるものである。また人文学部の先生の方々、学務係の先生の方々、学生部の先生の方々からもたいへんお世話になっているからなのだ。学園ニュースの一角をお借りして、深く深く感謝の意を表すと同時にこれからいままでの貴重な体験を基礎に、もっともっとベストを尽す決意を示すものである。

ルードヴィヒスブルク教育大学での留学を終えて

教育学部小学校教員養成課程

4年次生 石原法代

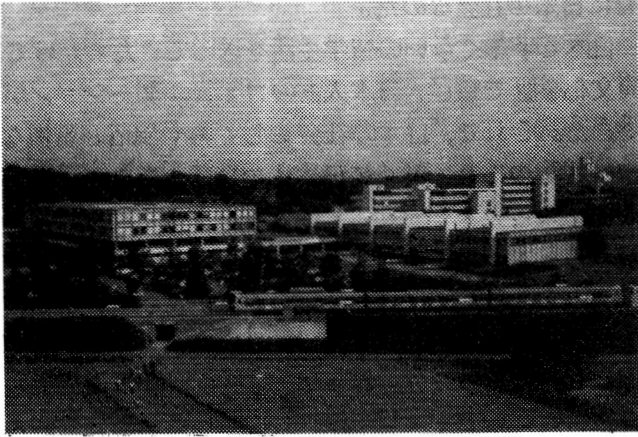
私は、文部省の教員養成大学・学部学生海外派遣制度により、富山大学教育学部における14人めの、そしてルードヴィヒスブルク教育大学へは第1回の留学生として、昭和62年9月から昭和63年7月までの11カ月間西ドイツで学ぶ機会を得ました。

ルードヴィヒスブルクは、バーデン・ヴュルテンベルク州の州都であるシュツツガルトの近郊にあり、人口8万人、「シュエービッシュのベルサイユ」とも呼ばれ、ルードヴィヒス王がベルサイユ宮殿を模倣して建てたという城、湖と豊かな自然に恵まれた、静かで美しい街です。ルードヴィヒスブルク教育大学は、Schulcentralと言い、様々な学校が集中して建っている区域の一角にあり、そのような環境の中で、私は主

として音楽と音楽・芸術・体育の総合科目を学びました。

西ドイツで得られた知識は、留学以前の私の想像をはるかに超えるものでした。

授業における学生達をよく質問し、考える自主的、積極的な姿勢の中に、私は、教師・学生という関係ではなく、まさに人間対人間の立場で自分の意見を発言し、互いに高めあうという活発な雰囲気を感じました。そして、個人が集団に埋もれるのではなく、自己の能力範囲で個性を十分発揮できる自由を知ったのです。常に、自分の目的を持ち、それに向かいマイペースで勉学する彼らを見て、本来の大学生のあるべき姿を学ぶと共に、とても感心させられました。



ルーヴイヒスブルグ教育大学

それから、私は小学校で、音楽と、音楽・芸術・体育総合科目の教育実習を週1回行い、そこでも子供達の活動的な態度や、音楽が小さい頃から自然に生活の中で親しまれていることを観察し、子供達が自己の内からの欲求によって音楽を行っていることに気付きました。音楽を学ぶ段階がきめ細かく確立し、全くの初心者でも、無意識のうちに技術を体得する計画的な教授法を身をもって経験したり、また、学生達のあらゆる可能性を追求していくアイデア・方法に、彼らの真面目さと、日本にはない新鮮なものを感じるなど、毎時間が発見の連続でした。

音楽・芸術・体育の総合科目で印象に残ったのは、それらが関連することの重要さです。音楽・芸術・体育は人間にとって必要なものであるだけに、私はそれについて真剣にとりくまなければならないと思いました。

留学中、私は大学の近くにある学生寮に住んでいました。そこには、西ドイツの学生だけでなく、様々な国の留学生も生活しており、国際色豊かな楽しい毎日でした。そして、国際交流とは何も難しいことではなく、例えば日本食を料理する、日本語で自分の名前を書くなど、日常生活のごく簡単なことから始められるのだと気付いたのです。

西ドイツと日本の国民性について考察したのも、国際理解と言えるでしょう。日本では、外国人に対する特別意識が強いのにに対し、西ドイツの人々は、私が日本人であることよりもまず、人間同士、あるいは自分の友人であるか、ないかということが交際関係を作り出しているように感じました。

それは、理解の仕方の違いによるものだと思います。私達は、表情のみの意志伝達が可能ですが、彼らの理解は、相手との対話によるもので、自分の意見を言葉で伝えなければなりません。そのことにより私は、対

話でお互いを理解する意味と、国際理解の第一歩ともいえる、外国語の修得は絶対不可欠だということを痛感しました。

学生達の日常は、日本の大学生にくらべ質素で、自分の時間をとても大切にするものでした。また、週末に友人宅を訪問し、家族のあり方や過ごし方を見、西ドイツの経済面だけでなく、人間らしい文化水準・豊かさをも学ぶことができました。

独語には、2人称敬称のSieと、家族や友人の間で使用されるDuがあります。学生同士はDuを使うのですが、大学生である私が西ドイツに留学し、Duの関係を築くことができたのは、大きな喜びです。留学で得たかけがえのない私の宝は、多数の友人でした。

日本人であることを自覚し、その国の言語・文化・歴史・習慣・人間性を尊重し、理解を深めていく素晴らしさを知ることができ、大変幸せに思います。

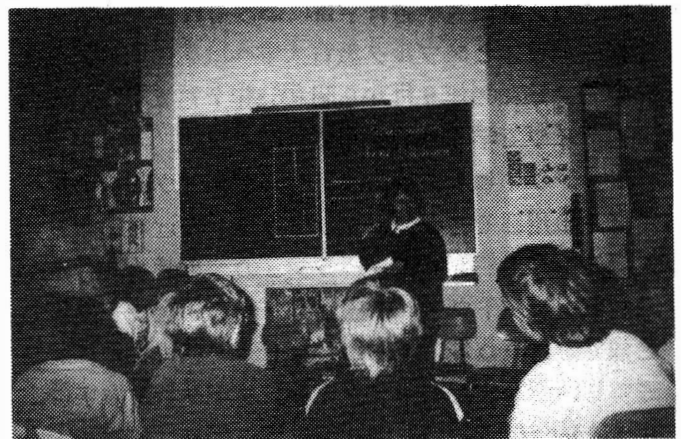
短期間でしたが、憧れだった西ドイツ留学が実現し、それをなし終えて、今は充足した気持ちでいっぱいです。瞳を閉じると、つい昨日のこのように思い出されます。

ルーヴイヒスブルグ教育大学留学中は、西ドイツの教師になるくらいの精神で努力しました。

西ドイツでの、毎日、一瞬一瞬は充実しており、私の人生における輝かしい、貴重なものとなりました。それだけに、この留学で得たことを、これからの勉学の糧とし、さらに教師となって、私に与えられる任務を自分のできる限り果たせるよう一層精進して行きたいと思っています。

最後に、御指導、御援助してくださいました、先生、職員、先輩の方々に心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



授業中の筆者

地域共同研究センターだより

地域共同研究センター助教授 池野 進



来賓あいさつ

I 開所式挙行

富山大学地域共同研究センターは昭和63年5月19日に開所式を行い、本格的に始動した。

本センターは大学内研究者と民間企業関係者らとの共同研究を通して、より一層の高度技術の開発と地域産業の発展に貢献する事を目的に、昨年5月に設置が認められ、これまで施設・設備の建設整備に当たって来たが、先般待望の開所式を迎えた。同センターは全国の大学に先駆けて富山大学、神戸大学及び熊本大学の3大学に設置されたが、富山大学がまず先陣を切った開所式となった。

II TOYAMAテクノフォーラム開かれる

富山大学地域共同研究センターの開設を記念して、さる7月15、16日の両日にわたり、大山町の立山国際ホテルで「産学官交流TOYAMAテクノフォーラム'88」が開催された。講演や討論による研究紹介、情報提供を合宿方式による人的交流、ネットワーク作りを介して行おうとする試みであった。

出席者は産業界から170人、大学関係40人、官庁、公設研究機関40人の計250人という盛況であった。

基調講演「ロボット研究の経験」(東大名誉教授 藤井澄二氏)の後、メカトロニクス、新素材、バイオテクノロジー、エレクトロニクス、AI&シミュレーションの5分科会に分かれ、各分野の第一線で活躍する研究者の講演やパネルディスカッションを通じて交流した。

講演は13件、松下電気、京セラ、古河電工等産業界及び東大、東工大、京大等大学側から最新の研究成果を交えたガイダンスが行われ、活発な討論が行われた。

パネルディスカッションは北陸地域の各界代表を交えて、開発研究の動向など基本的な討論が重ねられ、2日間に互る会期も時間不足に感じられた。

最後に、本会は主催として加わって載った富山県、富山技術開発財団、北日本新聞社及び共催、後援を載った各大学、団体、企業等の多大の協力無くして開催は不可能であった事を強調したい。



分科会報告まとめ

黒田講堂の改築について

富 山 大 学

現在の黒田講堂は、コクヨ株式会社の創始者故黒田善太郎氏が、郷土富山のために何か貢献したいというお気持ちから昭和32年10月県内唯一の大学である富山大学に寄付されたものです。善太郎氏は明治12年富山市鉄砲町（現在の安野屋交差点付近）で生まれ、明治31年北陸線が金沢市から高岡市まで延長されたとき、19才で単身大阪へ出て、苦勞の末コクヨの源となった「黒田表紙店」を興されました。一方、郷土富山の物産を関西に紹介する等富山の産業発展等に多大の貢献をされ、富山市から名誉市民の称が贈られています。

黒田講堂は、入学式及び卒業式等の諸行事に使用されてきましたが、入学者の増加や建物の老朽化から式典には使われなくなり現在に至っています。

善太郎氏の御子息コクヨ株式会社社長黒田暉之助氏は、大阪生まれの大阪育ちではありますが、父善太郎氏の後を継ぎ近畿富山県人会長を務め、富山のために、献身的な努力をされてきました。琴ヶ梅園が大阪場所以で来阪すれば後援会長になり、甲子園の高校野球大会には必ず郷土のチームの応援に行かれます。

黒田講堂は、既に30年以上経過し、建物内外の老朽化が著しく、黒田暉之助氏から「先代の建てた講堂が傷んでいるのに、ほっておくわけにはいかない。」と改築の申し出があり、大学は評議会に諮って善意の寄付をお受けすることになりました。

大学では、昨年6月から新しい黒田講堂の内容をどうするか、施設整備委員会の下に、各学部の教官等から成る黒田講堂改築専門部会を設け、検討しました。その結果、500人程度収容の講堂と若干の会議室を中心としたものということになりました。理由としては、寄付額が約6億円ということから建築延面積は、1,700㎡（現在は1,274㎡）程度となります。大きな講堂（850席程度）だけを作る意見もありましたが、この程度の規模では中途半端で入学式等はできないし、冷暖房費が大きくなって、気軽に使えなくなります。やはり、利用される講堂でなくてはいけないということ、学内に400席位の大講義室があるので、その少し上の500席位が適当ではなかろうか。又教官

等の学会の会場として使う場合、全体集会の講堂と分科会等の会議室が必要であること、50～100人位の教官或は学生による研究会、発表会等に会議室が必要であり、又大学としても会議室が不足している等の理由からです。講堂については、500の固定席で階段方式となります。演奏会、演劇会等の関係から舞台の奥行きは約10mをとることにしました。又会議室は、使用目的・人数により可動式間仕切機能を持つものとするとなっています。

新講堂の使用目的は、次のとおりとなっていますが、使用の細部については今後新講堂ができるまでの間につめることとなります。

（新黒田講堂を使用する行事等）

I 大学・学部等行事関係

- (1) 講演会
- (2) 説明会（大学案内、入試、授業料減免、奨学金返還、公務員採用試験、企業等）
- (3) 公開講座
- (4) 記念式典
- (5) 会議（本学が当番となる会議、学内の委員会等諸会議）
- (6) その他諸行事

II 研究関係

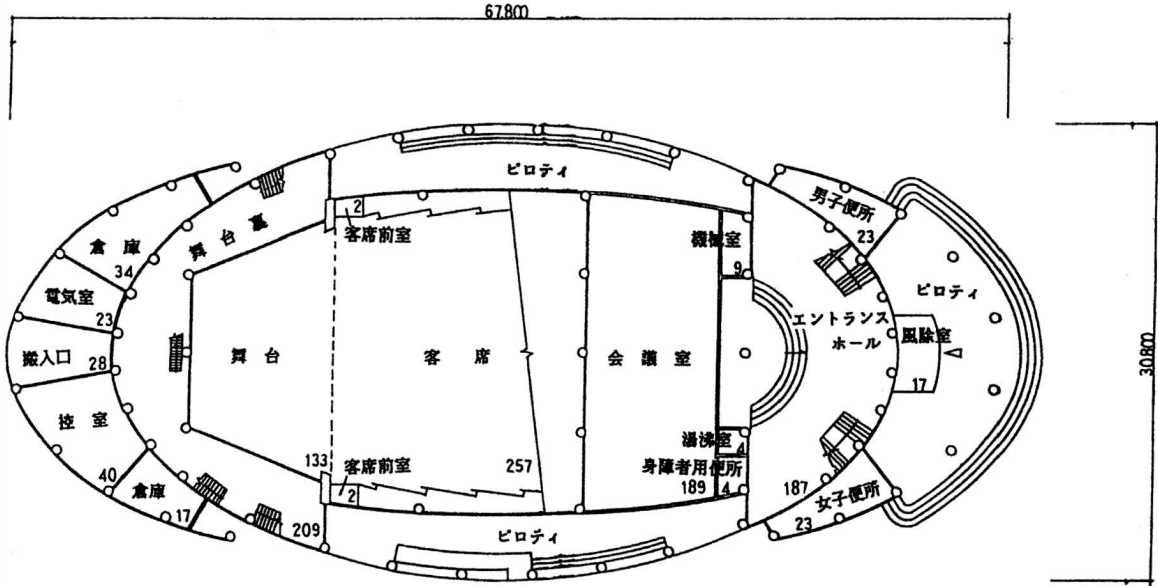
- (1) 学会
- (2) 研究会、研究発表会
- (3) その他研究関係集会

III 課外活動関係

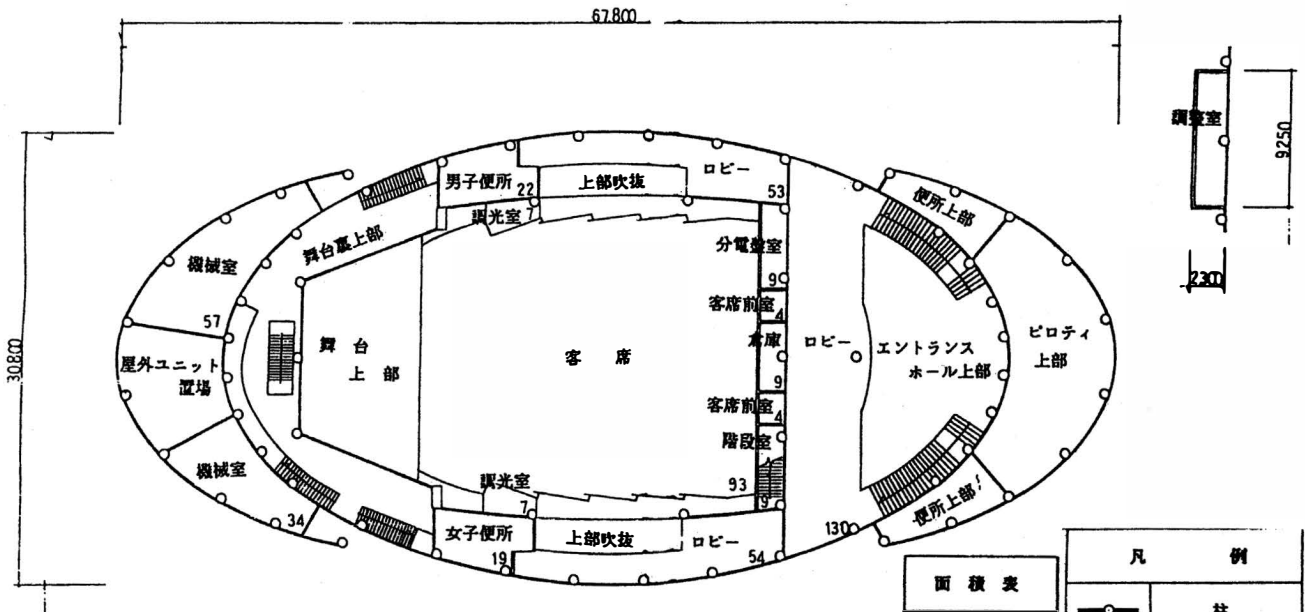
- (1) 演奏会（フィルハーモニー管弦楽団、軽音楽部、合唱団、ギターマンドリンクラブ等）
- (2) 発表会（落語研究会、武道系サークル、文化系サークル等）
- (3) 学生団体主催講演会（大学祭講演会等）
- (4) “ 映写会（大学祭映写会等）
- (5) “ 研究会
- (6) その他学長が適当と認める課外活動関係諸行事

（備考）(1)(2)については、リハーサルを含むものとする。

富山大学黒田講堂



1 階 平 面 図



2 階 平 面 図

面積表		凡 例	
階 数	面 積		柱
1 階	1201.3㎡		耐 震 壁
2 階	532.0㎡		コンクリート又は ブロック壁
計	1733.3㎡		間 仕 切 壁

◇◇◇◇ 学部だより ◇◇◇◇

◆ 人文学部

人文学部より本学の学生諸君へ

人文学部長 三 寶 政 美

メインストリートから向って、図書館左隣りに軟庭コートに平行した形でこの春から杭打ちの音も高く（その節は騒音でご迷惑をおかけいたしました）新建築物が着工され、この「学園ニュース」が皆さんの目にとまる頃にはきっと4階建ての建物がほぼ竣工をみていることと存じます。なんの建物かと、まだご存知ない大勢の学生諸君がいることでしょうかから、この場所をお借りして、皆さんに紹介いたしたいと思いません。

この4階建ての建物は、人文学部第Ⅰ期分の新校舎（建物総面積2,137㎡）であります。第Ⅰ期分というからには、まもなく第Ⅱ期分校舎も着工される含み（予定では昭和65年春）のものですが、まずこの第Ⅰ期分の校舎には語学文学科（7コース）が12月末に移転する手筈になっています。

それでは、新校舎に皆さんをお誘いいたしましょう。まず、1階玄関は図書館側から右隅に当ります。玄関入口をくぐると、突き当たるまで奥行きのあるホールに出ます。ホールは、77㎡あり、後程お知らせいたしますが、右壁に高さ2m、幅7mの壁画が創作され、玄関を出入りする者にとって休息と思案の場にもなることと思えます。

この玄関とホールに継いで、廊下をはさんで左右に事務関係（経理、学務、庶務の各室）、学部長室、小会議室とピロティーに分れます。ピロティー（120㎡）は、囲いのない資格基準面積外のもので、現代の校舎感覚から生まれたものです。元来、大学の校舎というと、とかく象牙の塔たるイメージが強くあり、暗くてなんの変哲もない建物こそ研究教育の場に似つかわしいといった固定観念があります。このピロティーはそうした固定観念を打破しようとするもので、教師や学生、あるいは学生諸君らが教室を出て自由に語りあい、談笑しあうトークの場にしようという狙いをもったものです。目下我々もどのようなものにしたら、その目的に沿うのか思案中ですので、皆さんにもし良い考えがあったらお聞かせ下さい。

尚、1階の事務関係のスペースは、第Ⅱ期工事完

成の間まで暫定的に講義室に代替使用されます。しかし、経理部の部屋は暫時教官談話室に代替されます。教官相互の語り合いと諸雑誌閲覧を兼ねた場としての教官談話室は現在の人文校舎にはなく、長年願望していたものですので、とくに私達教官にとってはうれしいものです。

次に2階に上ります。2階は英語英米文学、朝鮮語朝鮮文学コース関係室（教官研究室、学生の演習室など）大会議室（暫時、講義室）、教官講師控室、会議準備室などが廊下を狭んで並んでいます。3階以上も同じ構造で、3階は国語国文学、ロシア語ロシア文学コース関係室、院生室、外国人留学生（研究生）室など。最後に4階ですが、ここはドイツ語ドイツ文学、中国語中国文学、比較文学コース関係室などで占められ、眺望を望む者は、さらに屋上に出ることが出来ます。

各階ともに彩光を十分採り入れ、2階以上は廊下の左右の突き当りに小ベランダを取りつけて風通しを図るなどの配慮がみられます。

スペース的には、なお不十分さは免れませんが、しかし、昭和52年に文理学部から改組独立して11年、さらに、昭和42年に文理学部から教養部が独立した時点まで逆のばれば、20余年来の人文学部校舎独立の悲願がここに達成されんとしているわけです。しかも図書館に隣接した場所に本学部の敷地が新たに保障されたことは、人文学部の学門的性格からして今後有形無形の利点をもたらされるものと期待できます。

ここで先に紹介した玄関ロビーに創られる壁画のことについて一寸説明いたします。実は校舎新営に伴い、なにかモニュメントをと企画したのですが、それにしても先立つものがなく、本学部同窓会（本田 弘 会長）にご相談申しあげたところ、苦しい財政状態にも拘らずモニュメント作成資財（150万）を寄付して下さいました。ここに同窓会会員の皆様は厚く御礼申しあげます。

モニュメントは、種々検討した末に、壁画制作者として高名の本学教育学部助教授丹羽洋介先生に依頼することとなり、先にご快諾を得た次第です。丹羽先

生は早速に制作の準備にとりかかれ、壁画のテーマは、人文学部の理念たる「思索」に求め、フレスコに大理石のモザイクを配したものを構想中とかで、まもなくすばらしい一大壁画が現出することでしょう。

人文学部第Ⅰ期分の新校舎についてのご紹介は以上に尽きます。今後は予定通りに第Ⅱ期分校舎建築が1日も早く着工されることを心から待望しています。その節には、またⅡ期校舎について紹介させてもらいます。もとより私達は、新校舎が成ったからといって、それが即学部発展の完全なキップを入手したのだと安易に考えてはいません。外形にふさわしい内実こそ将来の一層の飛躍に向けて私達教職員が学生諸君と一体となって追求していかななくてはならぬものだと、改めて肝に銘じています。

ところで余談ですが、先日、すでに本学部を卒業して社会人となっている諸君の先輩に会った折、人文学部の移転について話したところ、一寸複雑な影が彼の表情に走るのを私は認めました。彼は自分の後輩達により良い教育環境の下で学習できることを喜びながらも、同時に自分の青春を支えてきた場がこの世からやがて消滅してしまうことを悲しんだのに違いありません。私も実はとうに大学の学び舎を喪失した者のひとりですので、その先輩の気持ちがよくわかりました。建物も人間と同じく寿命があり、やがては失なわれていくものです。

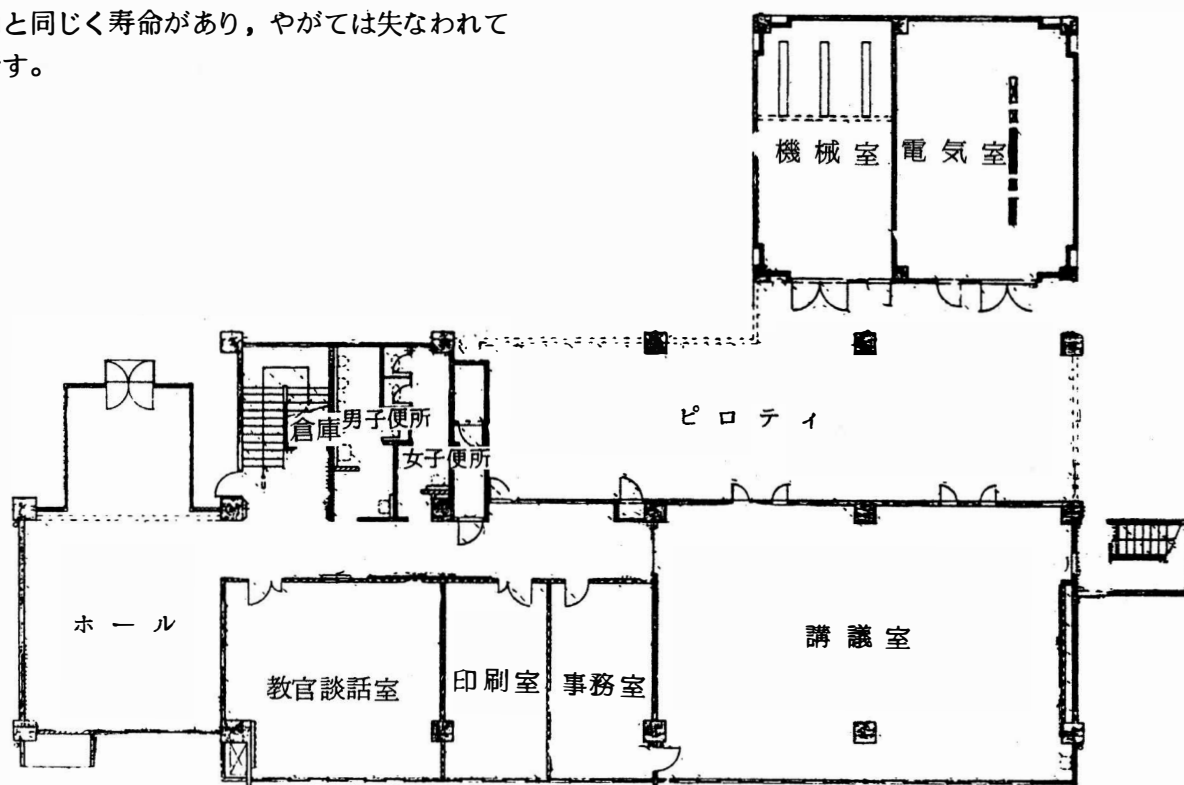
しかし、私の経験では、不思議なことに失ってから逆に、かつての校舎は私の内において息を吹き返し、それは、私が年令を重ねれば重ねるほど様々の青春の思い出を伴って生き続けています。かの先輩も現在の校舎が真に彼にとって青春の場であったなら、やがては私と同じ思いを分ち合うことになるのではないのでしょうか。

さて、わが富大に目をやれば、建設の槌音は人文学部のみならず、ここ10数年の間に続いて経済学部、教養部、理学部等へと次々に及ぶ計画になっています。

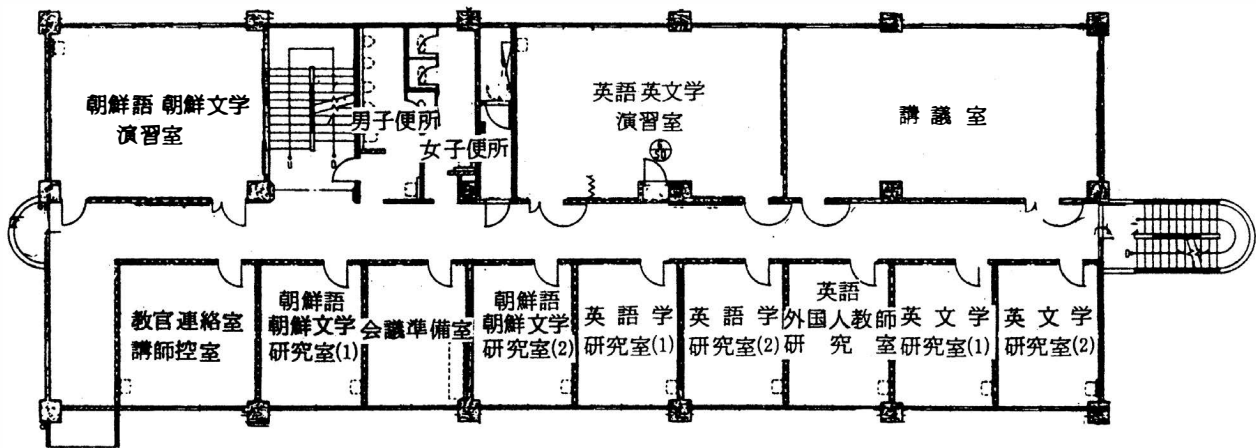
一方では、野外運動場の拡充整備、サークル会館、外国人留学生会館などの新営も、近い将来考えなくてはなりません。そして、それに付随するクルマの対策など、狭隘な敷地の中でいかに学園たるにふさわしい環境づくりを目指していくか、これは遠い将来の課題ではなく、焦眉の今日的な問題です。皆さんにそのことを訴え、結びといたします。

最後に人文学部校舎新営に当って、常日頃より多大のご尽力を賜っております本部事務局、とりわけ施設課の皆さんに感謝申し上げます。

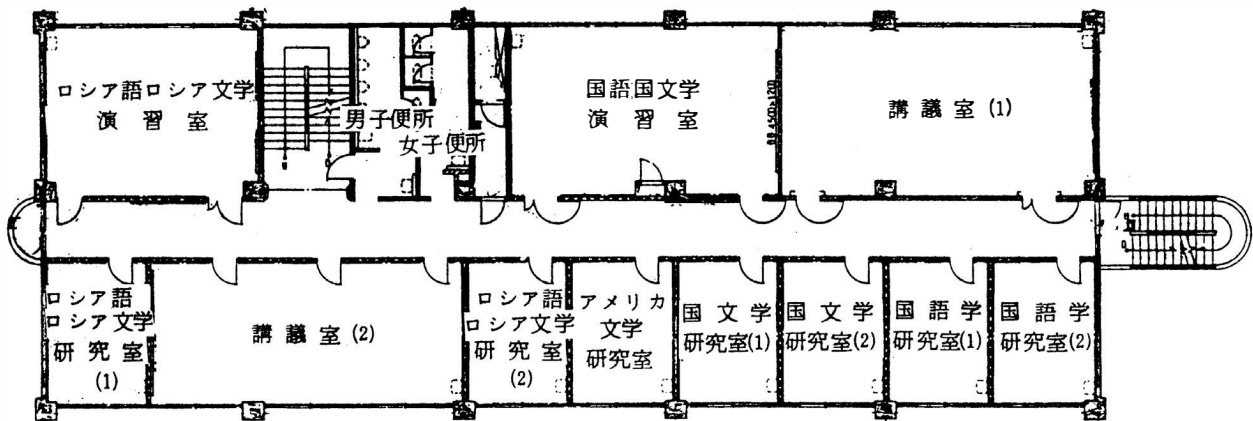
9月17日 記



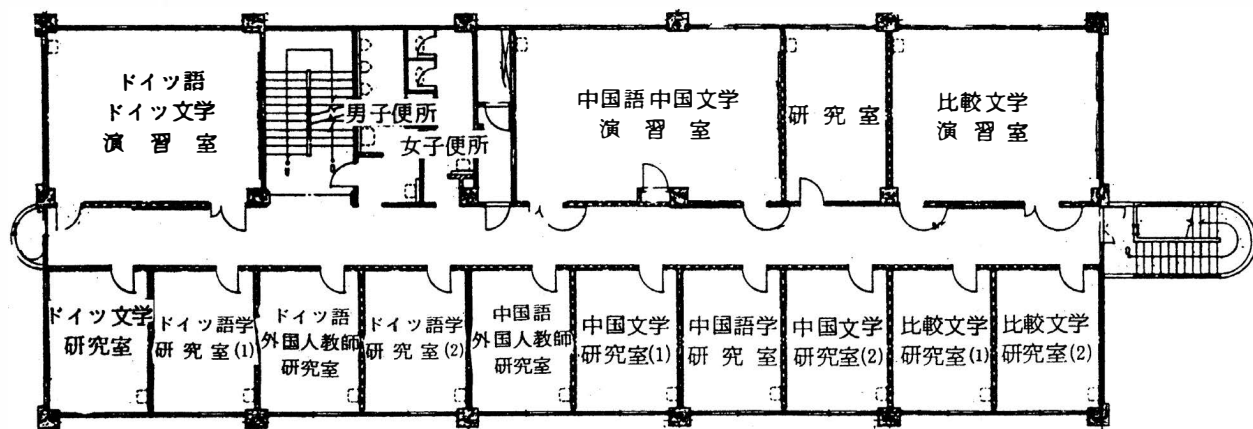
1階平面図



2 階平面図



3 階平面図



4 階平面図

理学部説明会を終えて

理学部

理学部教授 風巻紀彦

1. 学部説明会の意義

理学部説明会（富山大学説明会・午後の部）は、場所を理学部10番教室に移し、次の要領で実施されました。

- (1) 理学部長挨拶（13:00）
- (2) 各学科の概要説明（13:10）
- (3) 質疑応答（14:50）
- (4) 各学科質問・相談コーナー、実験室見学等（15:00）
- (5) 附属図書館、情報処理センター見学（16:00）

対象は富山、石川両県の高校2年生と3年生で、主に理学部における研究・教育の内容や卒業後の進路状況に関する情報を提供し、合わせて本学が他大学に比べて遜色ない特色を有していることを肌で感じてもらいたい、というのが目的です。この種の説明会は、日本海側の大学では、まだ実施されていないようですが、茨城大学、宇都宮大学、神戸大学、広島大学、岐阜大学等相当数の大学で実施しており、しかもその数は年ごとに増えています。国立大学も、PRが必要な時代になった、という訳です。これにはそれなりの理由がありそうです。昭和62年度の連続方式に基づく受験機会の複数化につづき、昭和64年度からは分離分割方式が導入され、その上昭和65年度から共通一次試験に代わる「大学入試センター試験」の実施が予定されています。これら一連の入試制度の変更が、地方の国公立大学の地盤沈下を助長し、大学の序列化を一層促進するのではないかと、という危機感が大学側にあります。他方、高等学校側には、入試制度の複雑化に対する困惑があり、とりわけ受験生の戸惑いは大きな問題となっています。このような状況にあって、受験生に対し大学側の提供する情報が少なすぎるという不満が出てくるのは、当然の成行きであろうと思われます。初めての大学説明会が、理学部のみ参加という変則的な形であったにもかかわらず、多数の高校生の参加を得て、まずまずの手応えを感じることが出来たのは、恐らくそのような事情があるからでしょう。それ故にこそ、来年の大学説明会では、全学部が参加して、この社会的要請に積極的に応えるべきではないでしょうか。

2. 学科紹介と問題点

高校生側と大学側の双方にとって有意義な説明会とするには、一体どう対処すべきだろうか？ 要は、高校生が理学部について何を知りたいか、を正しく認識し、そこに照準を合わせて準備を心掛ければ良いのですが、これがなかなか難しい。なにしろ、高校生が対象の説明会は、初めての経験です。それに今回は、時間的余裕がありませんでした。理学部では急遽準備委員会を設け、基本方針等について検討し、学科ごとに資料を作成しました。例えば、数学科では、

- a. 昭和63年度後期時間割
- b. 就職状況、求人状況
- c. 数学科質問・相談コーナーへの案内文

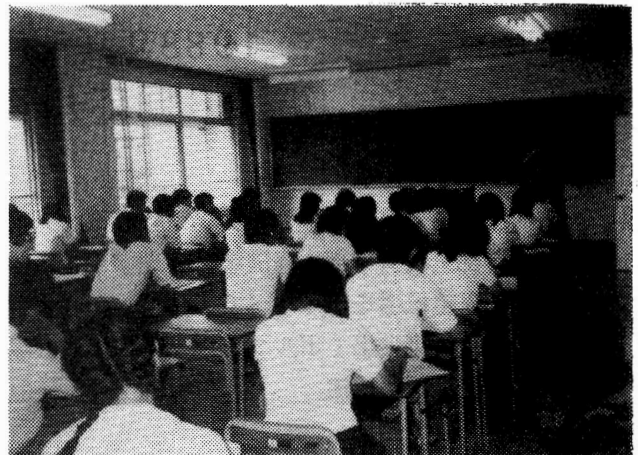
化学科は

- a. 各講座の研究概要
- b. 卒業生の就職先リスト

地球科学科の場合は

- a. 学部移行時のオリエンテーション用資料
- b. 卒業生の就職先及び進学先リスト

などです。式次第の二番目「各学科の概要説明」のところでは、これらの資料の他にスライドやOHPを利用し、数学、物理、化学、生物、地球科学の順に20分づつ学科の代表が研究・教育の内容及び就職状況等について総括的に説明しました。また、学科ごとに分れて行なう質問・相談コーナーでは、各学科の研究スタッフが数名出席し、パネルやビデオを活用して、個々の質問に懇切丁寧に応ずるなど、総じて好評であ



学科説明会

ったようです。ただし、次回の説明会に向けて、再検討を要する事柄がない訳ではありません。例えば「各学科の概要説明」について：参加者が、本人の興味の有無に関係なく、全学科の説明を聞かざるを得ない、という点は、少し問題かも知れません。実際に、“この部分の時間を短縮し、逆に質問相談コーナーに多くの時間をとってほしい”という意見が少なからずありました。茨城大学でも同様の指摘があり、結局理学部長の挨拶の後、すぐに希望の学科に分れて説明を受ける形式に改めたそうです。その他、今回は就職状況の好調さを少々宣伝し過ぎたような気がします。“大学は職業安定所ではない……”という批判があり、この点も次回への課題として検討すべきでしょう。

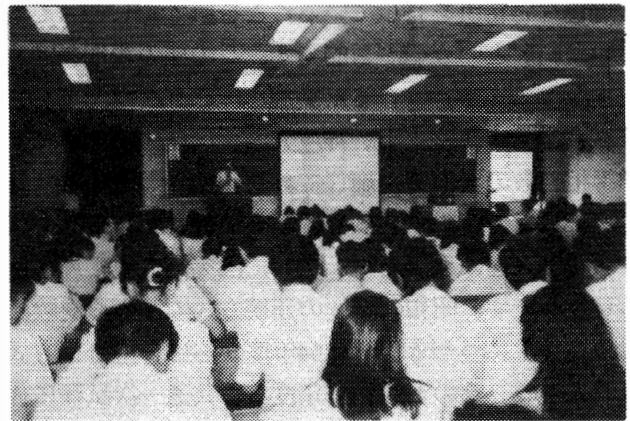
3. 参加者の反応

ある調査によりますと、高校生の望む情報の第一は、各学科における研究内容、第二は教育内容、次いで卒業生の就職状況、学生の日常生活…とつづくそうです。確かに、今回の説明会においても、この調査結果を裏付ける反応を感じました。ところが、引卒の先生方の反応は、“入試の得点結果について各教科おどろばでよいから触れてほしい…”という意見が出るなど、生徒とは若干違うように思いました。生徒の進路指導担当の先生にすれば、立場上無理からぬ要望とは思いますが、しかしこの種の質問に明確に答える訳にいかず、国会の答弁のようになってしまうのは、止むを得ないところです。

ともあれ、初めての大学説明会が無事終了しました。最後に、真剣な表情で説明に聞き入っていた高校生たちの顔を思い出しながら、アンケートに寄せられた感

想の中から、いくつかを紹介しておきます。

- このような直接経験は、生徒に良い刺激になる。感謝しています。
- 案内書だけでは不十分な説明も充分聞くことができ、とてもよかった。できれば各学科の見学時間を長くしてほしい。
- 理学部だけでなく、他の学部についても、できれば別の日にしてほしい。
- 内部からのお話を聞かせていただいて、私が勝手に思い込んでいたイメージとはかなり違った面もありましたので、とてもためになったと思います。十分に今後の参考にさせていただきます。
- 進学についての説明は大変詳しく、学科ごとに分け、ヒマワリを数学に結びつけたのは大変驚き感心しました。それに、スタッフもとても若いようですし、将来が期待できそうです。絶対に、この学科に合格してみせます。



理学部説明会場

■ 工学部

1988年（昭和63年）秋季 第49回応用物理学会学術講演会

日時：10月4日(火)～7日(金)
場所：主会場（富山大学31会場：教養部・人文学部・教育学部・経済学部・理学部・工学部）超伝導を除くすべての分科・シンポジウム／副会場（ボルファートとやま4会場）超伝導関係講演

発表件数：3,236件（半導体729, 結晶389, 超伝導288, 光エレクトロニクス280, 薄膜・表面264, ビーム応用243他）

参加人数：約4,500名 世話人代表：宮下 和雄
「応用物理」9月号に詳細プログラム掲載

計 報

人文学部教授 梶井 陟氏逝去

経済学部教授 今井 晴 男氏逝去

本学人文学部教授梶井陟氏は、昭和63年9月9日
心不全のため逝去されました。

享年61才

ここに御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

専門 (朝鮮語・朝鮮文学)

本学経済学部教授今井晴男氏は、昭和63年9月7日
慢性肺炎のため逝去されました。

享年56才

ここに御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

専門(統計解析)

***** 学生部 だ よ り *****

第38回北陸三県大学学生交歓芸術祭日程

当番大学 富山大学
昭和63年10月22日~12月4日

期日 部門別	10 月				11 月								12 月		
	22 (土)	23 (日)	29 (土)	30 (日)	5 (土)	6 (日)	11 (金)	12 (土)	13 (日)	19 (土)	20 (日)	26 (土)	27 (日)	3 (土)	4 (日)
管 弦 楽					富山県民会館 富山市公会堂										
軽 音 楽	富山大学 学生会館														
合 唱					新湊市 中央文化会館										
美 術										富山県民会館					
書 道							富山大学学生会館								
茶 道												富山市内寺院			
放 送										富山市内寺院					
落 語					富山大学 学生会館										
邦 楽			富山大学 学生会館												
写 真														富山県民会館	

昭和63年度 北陸地区国立大学体育連盟表彰者（本学分）

硬式庭球部 小林 正 則

（理学部地球科学科 昭和62年度卒業）



実 績

昭和60年度

北信越学生新進戦
単 1 位

昭和61年度

北信越学生トーナメント
単 2 位

北信越学生選手権
単 1 位

全日本学生選手権 本選出場
全日本学生室内選手権 出 場
北信越学生ランキング 単 1 位
富山県ランキング 2 位
全日本学生ランキング国公立大学内最高位(単)

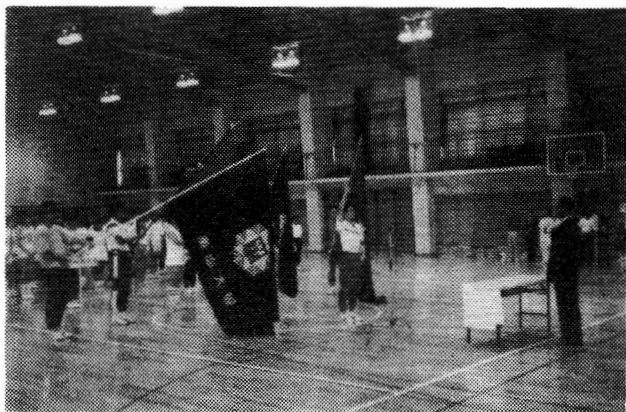
昭和62年度

北信越学生トーナメント 単 1 位
富山県選手権春季大会 単 1 位
北信越学生選手権 単 1 位
富山県選手権秋季大会 単 1 位
全日本学生選手権 出 場
全日本選手権 出 場
全日本学生室内選手権 出 場
北信越学生ランキング 単 1 位
富山県ランキング 1 位
全日本学生ランキング国公立大学内最高位(単)

第40回北陸地区国立大学体育大会団体成績一覧表

種 目		優 勝 杯	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
男 子	陸 上 競 技	金 沢 大 学 長 杯	金 沢	富 山	富 医	福 井	福 医	
	水 泳	福井大学学生部長杯 金沢市議会議長杯	金 沢	福 井	富 山	富 医	福 医	
	野 球	富 山 大 学 長 杯	(中 止)					
	準 硬 式 野 球	福井大学父兄後援会杯	(中 止)					
	庭 球	富山県体育協会長杯	富 山	金 沢	福 井	富 医	福 医	
	軟 式 庭 球	石 川 県 知 事 杯	(中 止)					
	バスケットボール	福 井 大 学 長 杯	金 沢	富 山				
	バレーボール	福 井 県 知 事 杯	富 山	金 沢	富 医・福 井	福 医		
	サ ッ カ ー	石 川 県 知 事 杯	富 山	福 井	金 沢・福 井	富 医		
	ラグビー・フットボール	富 山 県 知 事 杯	金 沢	富 山	富 医	福 井	福 医	
	卓 球	金 沢 市 長 杯	富 山	福 井	金 沢・福 医			
	バドミントン	福 井 市 長 杯	富 山	金 沢	福 井	富 医	福 医	
	柔 道	富 山 県 議 会 長 杯	富 山	福 井	金 沢	富 医		
	剣 道	福 井 県 議 会 議 長 杯	金 沢	福 井	富 医	富 山	福 医	
	体 操	福 井 市 議 会 議 長 杯	金 沢	福 井	富 医			
	ハンドボール	金 沢 大 学 長 杯	金 沢	富 山	福 井	富 医		
	ヨ ッ ト	石 川 県 議 会 議 長 杯	金 沢	富 山	富 医			
空 手 道	福 井 市 長 杯	富 医	福 医	金 沢	福 井	富 山		
弓 道	富 山 大 学 長 杯	金 沢	福 井	富 山	富 医	福 医		
自 動 車	金 沢 大 学 長 杯	(中 止)						

種 目		優 勝 杯	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
女	陸 上 競 技	富山県体育協会長杯	富 山	金 沢	富 医	福 井	福 医	
	庭 球	石川県議会議長杯	福 井	金 沢	富 山	富 医		
	軟 式 庭 球	福井県体育協会長杯	(中 止)					
	卓 球	石川県体育協会長杯	富 山	金 沢	富 医・福 井			
	バドミントン	福井県教育委員会杯	金 沢	富 山	富 医	富 医		
	バレーボール	富山大学後援会長杯	金 沢	富 山	高 岡・福 井		富 医	
子	剣 道	金沢大学長杯	金 沢	富 山	富 医	福 井		
	バスケットボール	富山市議会議長杯	金 沢	福 井				
	弓 道	小杉スポーツ杯	金 沢	富 山	富 医	福 井	福 医	
	水 泳	福井大学長杯	金 沢	富 山	富 医	福 井		



開 会 式



ラグビ・フットボール試合

ストップ・ザ交通事故

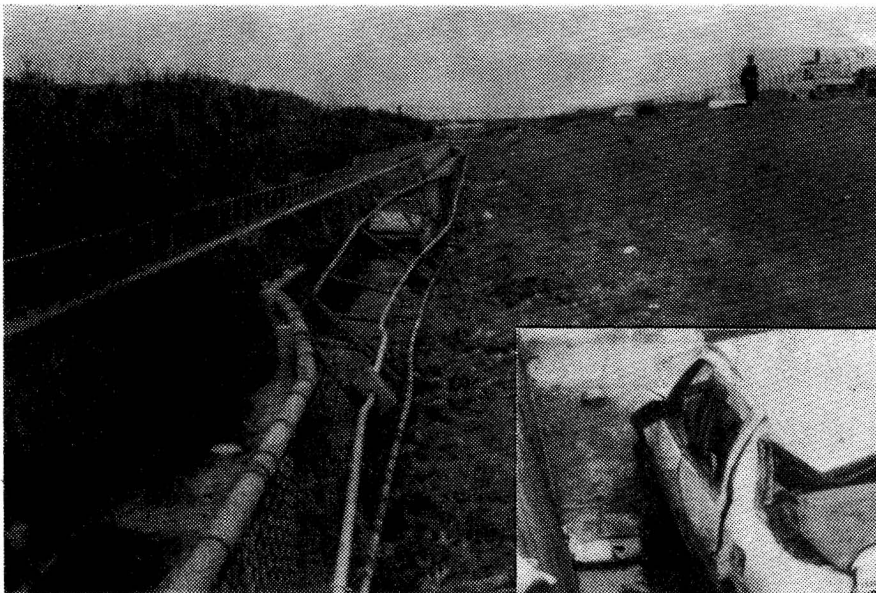
——交通ルールとマナーを守ろう——

最近、富山県下における交通事故のうち、死亡事故が大幅に増加していることから、富山県交通対策協議会では、県内における交通事故防止のため「県民総ぐるみ交通死亡事故ストップ作戦」を展開し、交通事故特に、交通死亡事故の増加傾向に歯止めをかける運動を推進しています。

本学の学生が関係した学内外における交通事故は別紙のとおりであり、この中には死傷事故、重大事故に

つながりうる事故が発生しています。

自動車、オートバイを運転する者はシートベルト、ヘルメットの着用は勿論、スピードの出し過ぎ等無謀運転を絶対に慎み、交通事故の当事者にならないよう常に安全運転に心掛け、交通ルールを遵守して事故防止に努めるよう強く注意を喚起するとともに自覚を促す次第であります。



富山市秋ヶ島神通川堤防道路より排水路に転落した乗用車
(女子学生2名死亡・男子学生軽傷・運転の男子学生重傷)

大学構内における学生の関係した交通事故

昭和62年4月～昭和63年9月 富山大学学生部扱分

発生年月日	発生場所	事故概要	負傷状況等
62. 4. 28	富山大学西門付近	オートバイと歩行者の接触事故	歩行者軽傷
62. 4. 30	第1グラウンドのフェンス	自動車が河川道路から転落しフェンスに接触	本人怪我なし
62. 5. 2	教育理・学生会館の交差点	自動車どうしによる接触事故	両者とも怪我なし
62. 5. 13	人文・教育・経済・理の交差点	自動車どうしによる接触事故	三者とも怪我なし
62. 5. 15	第1グラウンドのフェンス	自動車が河川道路から転落しフェンスに接触	本人怪我なし
62. 6. 2	人文・経済・学生部の交差点	自動車とオートバイの接触事故	オートバイの学生擦り傷
62. 6. 2	教育学部前	オートバイ転倒し2人と接触	歩行者1名は頸椎挫傷(2週間)1名は鞭打症
62. 7. 1	富山大学西門付近弓道場前	自動車を避けようとして転倒	病院で手当
62. 7. 4	教育・人文・経済・理の交差点	自動車とオートバイの接触事故	両者とも怪我なし
62. 8. 5	第1体育館と教育学部第3棟の間の道路	自動車と自転車の接触事故	両者とも怪我なし
62. 10. 23	教育・人文・経済・理の交差点	自動車とオートバイの接触事故	オートバイ学生は右足打撲
62. 10. 26	教育・人文・経済・理の交差点	自動車どうしの接触事故	両者とも怪我なし
62. 10. 30	教育・理・学生会館の交差点	自動車どうしの接触事故	両者とも怪我なし
62. 11. 15	軟式庭球コート横道路	自動車でフェンスに接触	怪我なし
62. 11. 30	軟式庭球コート横道路	自動車とオートバイの接触事故	オートバイ学生1週間の怪我
62. 12. 21	図書館前交差点	自動車どうしの接触事故	両者とも怪我なし
63. 4. 26	教育・理・学生会館の交差点	自動車どうしの接触事故	両者とも怪我なし
63. 5. 13	工学部北門付近T字路	自動車どうしの接触事故	両者とも怪我なし
63. 7. 8	人文・教育・経済・理の交差点	自動車と自転車の接触事故	自転車の学生は軽傷
63. 8. 17	富山大学南門	自動車で門扉に衝突	本人怪我なし
63. 9. 10	工学部北門付近T字路	自動車どうしの接触事故	両者とも怪我なし

学外における学生の関係した交通事故

発生年月日	発生場所	事故の概要	負傷状況等
62. 5. 2	五福地内県道富山高岡線 読売新聞五福販売所	自動車と歩行者の接触事故	歩行者3週間の怪我
62. 6. 22	富山大学正門前の県道	自動車とオートバイの接触事故	オートバイ運転者10日間の怪我
62. 7. 2	富山市水橋鏡田の県道	自動車と歩行者の接触事故	歩行者右足骨折3カ月の怪我
62. 8. 31	富山市掛尾町地内の 市道交差点	自動車とオートバイの接触事故	学生は被害者であり怪我なし オートバイ運転者は死亡 ほか2名軽傷
62. 9. 15	富山市水橋鏡田の国道	自動車とオートバイの接触事故	オートバイ学生は3週間の怪我 学外者の信号無視、無免許運転によるひき逃げ事故
62. 9. 21	上市町蓬沢の県道	自動車とオートバイの接触事故	オートバイ学生重傷 学生の無理な追い越しが原因
62. 10. 2	富山大橋上	学生の加害による玉突き事故	学生は胸骨にひび 最初に追突された運転手は1週間の鞭打ち症
62. 10. 5	北陸自動車道砺波 インター付近	自動車どうしの接触事故	同乗者1名が1カ月の怪我 5名の学生が1～2週間の怪我
62. 10. 29	富山大学西門前	自動車と自転車の接触事故	自転車の学生は病院にて検査
62. 12. 20	富山市五福3区 市道交差点	自動車と歩行者の接触事故	歩行者右足骨折の重傷
63. 2. 17	富山市五福地内の県道 富山大学職員会館前	自動車でブロック塀に衝突	怪我なし 自動車大破
63. 4. 15	富山市五福地内の県道	自動車と自転車の接触事故	自転車の学外者は2週間の怪我
63. 4. 23	富山市五福地内 県道富山高岡線	自動車とオートバイの接触事故	オートバイ学生3カ月の怪我
63. 5. 11	富山市秋ヶ島 神通川堤防道路	自動車の転落事故	同乗の女子学生2名死亡、男子学生軽傷、運転の学生重傷
63. 9. 12	富山大学南門前市道	自動車どうしの接触事故	両者とも怪我なし
63. 9. 16	富山市古沢県道 呉羽ネンネル	自動車どうしの玉突き事故	学生は被害者怪我なし 自動車損傷

昭和62年度アルバイトの斡旋状況

昭和62年度に学生部厚生課で取り扱ったアルバイトの斡旋状況は次のとおりです。表Ⅰは、職種別のアルバイトの斡旋状況及び賃金を、表Ⅱ、図Ⅰは月別の求

人件数・求人者数・紹介者数の状況をそれぞれ表わしたものです。

表Ⅰ 職種別アルバイトの斡旋状況及び賃金

昭和62年4月～昭和63年3月

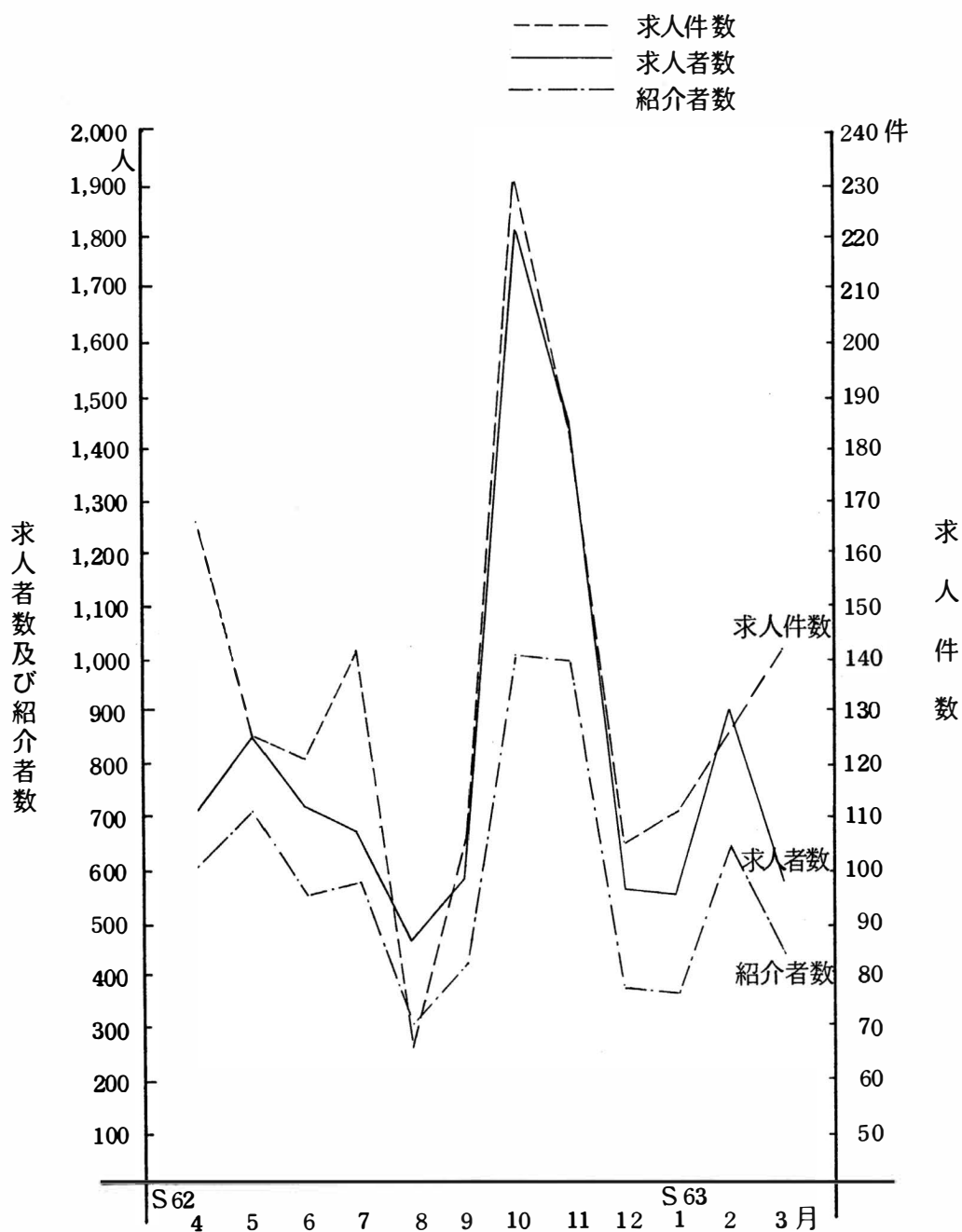
職種	項目	求人件数	求人者数	紹介者数	具 体 例	賃 金
家庭教師	人	291	291	243	家庭教師	時給 円 小学生の場合 1,300 中学生 " 1,500 高校生 " 1,600
学習塾講師	人	66	401	294	塾の講師	時給 700～3,500
事務	人	65	415	264	一般事務，宛名書き，校正， 電話の対応	日給 4,000～9,250
調査	人	36	458	309	交通量調査，世論調査	1件 900～1,500
重労働	人	511	3,841	2,584	搬出・搬入，荷造，配達， 清掃，倉庫整理，工場の雑 用引越し，新聞配達 洗車，商品整理，人員 理整	日給4,400～13,300
軽労働・ 軽作業	人	19	1,431	1,010	駐車場整理，測量，箱詰， 電話受付，検品，発送，歯 科助手	日給4,000～11,000
特殊技能	人	21	94	59	コンピューターのオペレー ター，電子オルガン演奏， ピアノ演奏	日給4,000～12,000
販売・店員	人	250	1,171	722	商品販売，ガソリン給油， レジ	日給3,840～9,000
その他	人	177	1,657	1,382	受付，ビラの戸別配布，プ ールの監視補助，イベント 手伝い，みこしひき，みこ， 採点補助	日給3,900～12,000
合計		1,615	9,759	6,867		

表Ⅱ 月別求人件数・求人者数・紹介者数の状況

昭和62年4月～昭和63年3月

項目 \ 月別	62年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	63年 1	2	3	計
求人件数	165	125	120	141	65	105	230	183	104	110	126	141	1,615
求人者数	700	845	707	660	453	570	1,819	1,444	554	546	896	565	9,759
紹介者数	593	699	545	569	294	401	996	985	362	356	637	430	6,867

図Ⅰ 月別求人件数・求人者数・紹介者数の状況



昭和63年度富山大学説明会について

8月1日(月)午前10時30分から、高校生に対する富山大学説明会が、本学で開催されました。

これは大学進学を目指す高校2・3年生を対象に、本学をより一層理解していただくため実施することになったものです。

今回は最初であり、理学部のみで開催となりましたが、夏休みの暑い中を、富山・石川両県から教諭・生徒約180名の参加がありました。

午前は教養部4番教室にて学長の挨拶で始まり、大学の概要、昭和64年度入学試験及び進学・就職状況の説明が行われ、午後は会場を理学部に移して、各学科ごとに教育・研究内容等の説明や実験室の紹介があり、盛況のうちに終了しました。

また、学内施設としては、附属図書館及び情報処理センターの見学も併せて行われました。

なお、参加者にアンケートを実施した結果、理学部

を理解できた：34名(31.8%)、少し理解できた：73名(68.2%)とあり、大方の人が何らかの形で理解を深めたことが伺われます。

回答の中には、

・このような直接経験は生徒により刺激になる(教諭)。

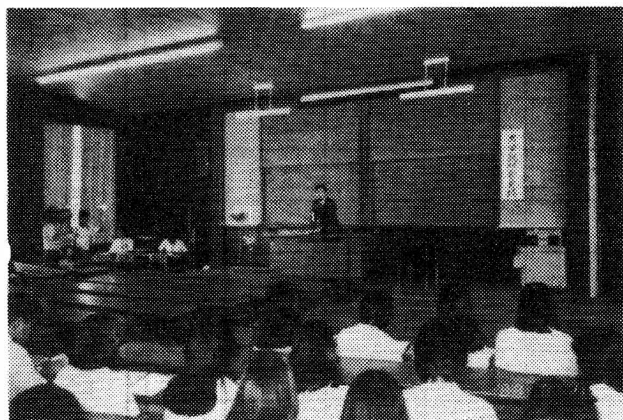
・案内書だけでは不十分な説明も、十分に聞くことができるとてもよかった。できれば各学科の見学時間を長くしてほしい(生徒)。

・内部からのお話を聞かせていただいて、私が勝手に思い込んでいたイメージとはかなり違った面もありましたので、とてもためになったと思います。十分に今後の参考にさせていただきます(生徒)。

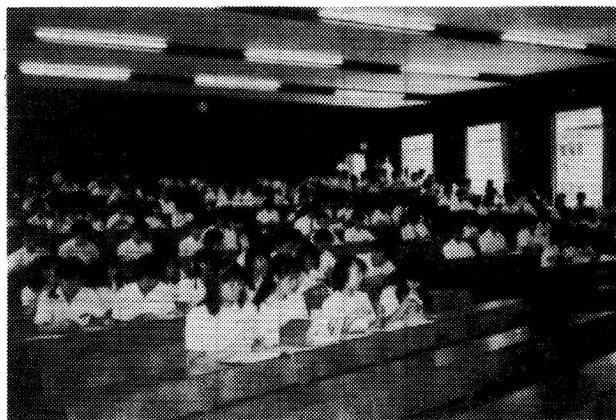
などがあり、また、

・他学部の開催をお願いしたい(教諭)。

との要望もありました。



学生部長の挨拶



熱心に聞く高校生

昭和62年度学生教育研究災害傷害保険利用状況

専攻分野別保険金請求件数

(昭和63年3月31日現在)

区分 専攻分野	正 課						中 課						学校行事中		課外活動中		休憩その他		合 計		学 部			大 学 院		合 計				
	体育の実技中		実験実習中		その他		計		男		女		計		男		女		計		1年		2年		計					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		女	男	女	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		計	計	計	
文 科 系	人文学部	0	1 (1)	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	1 (1)	0	0	1 (1)	
	教育学部	2 (3)	6 (6)	0	0	0	0	8 (9)	2 (3)	6 (6)	0	0	2 (6)	5 (6)	7 (12)	0	0	4 (9)	11 (12)	15 (21)	2 (3)	5 (8)	3 (7)	15 (21)	0	0	0	0	15 (21)	
	経済学部	1 (3)	1 (1)	0	0	0	0	2 (4)	1 (3)	1 (1)	0	0	4 (8)	0	4 (8)	0	0	5 (11)	1 (2)	6 (13)	1 (4)	1 (3)	0	0	1 (3)	4 (5)	6 (13)	0	0	6 (13)
計	3 (6)	8 (8)	0	0	0	0	11 (14)	3 (6)	8 (8)	0	0	6 (14)	5 (6)	11 (20)	0	0	9 (20)	13 (15)	22 (35)	4 (8)	6 (11)	7 (8)	22 (35)	0	0	0	0	22 (35)		
理 工 系	理学部	2 (3)	0	0	0	0	0	2 (3)	2 (3)	0	0	1 (1)	0	1 (2)	1 (3)	0	0	4 (6)	0 (1)	4 (7)	1 (3)	0	0	0	0	1 (3)	4 (7)	0	0	4 (7)
	工学部	2 (2)	0	0	0	0	0	2 (2)	2 (2)	0	0	1 (1)	0	1 (1)	1 (1)	0	0	3 (3)	0 (3)	3 (3)	0	1 (1)	2 (2)	0	0	3 (3)	0	0	3 (3)	
	計	4 (5)	0	0	0	0	0	4 (5)	4 (5)	0	0	2 (3)	0	2 (3)	2 (4)	0	0	7 (9)	0 (1)	7 (10)	1 (3)	1 (1)	5 (6)	7 (10)	0	0	7 (10)	0	0	7 (10)
合 計	7 (11)	8 (8)	0	0	0	0	15 (19)	7 (11)	8 (8)	0	0	8 (17)	5 (7)	13 (24)	0	0	16 (29)	13 (16)	29 (45)	5 (11)	7 (12)	10 (14)	29 (45)	0	0	0	0	29 (45)		

()内は事故発生件数

昭和62年度保健管理センター利用状況（学部別・疾病別）

病名・疾病別の区分	人文学部		教育学部		経済学部		理学部		工学部		教養部		大学院専攻科		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
感冒・頭痛	10	34	8	25	46	10	70	9	71	1	66	47	32	0	303	126
咽喉炎・扁桃腺炎	1	0	0	2	4	0	3	1	2	1	5	0	0	0	15	4
胃腸の障害・下痢	6	3	2	7	15	0	7	3	8	0	24	14	3	0	65	27
起立性調節障害	0	1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2	6
貧血	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	2	7
その他	0	0	1	1	1	0	1	0	3	0	1	0	1	0	8	1
切・刺・擦過傷	13	28	17	29	39	5	66	12	70	1	107	59	12	0	324	134
打撲・つき指・捻挫	2	13	4	34	11	2	25	10	13	0	41	16	4	0	100	75
筋肉・関節の痛み炎症等	0	6	5	17	7	0	8	0	6	0	17	13	1	0	44	36
火・熱・凍傷等	0	1	0	7	1	1	3	6	12	0	4	14	4	0	24	29
せつ・よう・ひょうそう	1	0	3	1	0	0	7	4	5	0	2	0	0	0	18	5
虫さされ・こう傷	0	1	1	5	1	3	4	1	5	0	6	5	0	0	17	15
骨折・脱臼	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	5	0
その他	0	0	0	2	0	0	0	2	2	0	1	0	2	0	5	4
眼科疾患	1	8	1	7	6	0	3	0	16	0	13	7	1	0	41	22
耳鼻科疾患	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	1	0	0	4	1
皮膚・泌尿疾患	1	4	0	3	1	0	3	0	0	0	7	1	0	0	12	8
歯・口腔科疾患	0	0	2	0	0	0	0	0	5	1	10	0	0	0	17	1
生理痛	0	8	0	16	0	3	0	3	0	0	0	26	0	0	0	56
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1
血圧	9	29	24	110	71	19	25	9	141	4	251	132	34	0	555	303
尿	15	23	16	110	14	9	16	2	28	1	194	120	1	0	284	265
その他の検査	0	0	1	4	7	2	3	0	11	0	5	4	4	0	31	10
健康・栄養相談	1	2	0	11	6	2	4	2	5	1	10	7	1	0	27	25
養	0	2	0	7	6	1	5	1	2	1	4	25	1	0	18	37
病院紹介	2	1	1	7	4	0	7	4	8	0	16	5	4	0	42	17
合計	62	164	86	408	243	57	264	70	415	11	788	505	106	0	1,964	1,215

在籍学生数5,741名（男3,902名, 女1,839名）

キャンパス樹木誌（４）

イ チ ヨ ウ (Ginkgo biloba L.) イ チ ヨ ウ 科

イチョウは生きている化石とも言われ、今からおよそ3億年前、古生代末期に現われ、中生代に全盛をきわめた植物である。ちょうど恐竜類の繁栄期と時を同じくしている。現存するイチョウは一科一属一種であるが、その頃イチョウは種類数も多く、全世界に広がっていた。事実、イチョウの化石はアラスカやグリーンランドからも発見されている。

ところが新生代に入ると新興の被子植物に圧倒されて次第に衰退し、第四紀の寒冷な時期にほとんど滅亡してしまった。現在は人間の保護のもとで庭園樹、街路樹として細々と生きている。

中国東南部が原産地とされるが本当の自生地はまだよくわかっていない。属名のGinkgoは銀杏の中国音ginkjoに由来する。日本には室町時代に仏教関係の文物とともに入ったとされている。ヨーロッパへは18世紀に輸入され、そこから世界各地に広まった。

歴史の古い植物だけに葉の形にも原始的な形質が残っている。葉脈の二分岐である。葉脈が葉の付け根から先へ向って二又二又に分かれる。そのため葉の形が末広りの扇形になる。長命で大木になるが高さよりは幹の肥大が著しい。

ふつう雄と雌が別株であり、銀杏（ぎんなん）のなる木とならない木がある。種皮は柔らかく多汁質で、中に酪酸をふくむため特有の強い臭気がある。銀杏は白果（びやくか）と呼ばれ、漢方ではせきどめの薬として用いられる。

本学キャンパス内では生協会館から図書館前にかけて並木があるほか、構内各所に植えられている。澄みきった秋空を背景に、輝やくばかりの黄葉が美しい。

教養部教授 小島 覚



学園ニュース編集委員

学 生 部 長	瀧 澤 弘	理 学 部	松 本 賢 一
人 文 学 部	河 村 貞 枝	〃	広 岡 公 夫
〃	山 口 幸 祐	工 学 部	島 崎 長 一 郎
教 育 学 部	呉 羽 長	〃	杉 本 益 規
〃	原 田 嘉 昭	教 養 部	高 安 和 子
経 済 学 部	山 崎 清	〃	山 本 孝 一
〃	相 澤 吉 晴		